



① 路上で「クリケット」をして遊ぶ子どもたち
② コルカタ庶民の足オートリキシャーとタクシー
③ 青空理髪店

インド駐在員の
コラム
Column
インド感染症共同研究センター
事務職員
内藤 賢一郎



◀NICED



美しいニュータウン周辺の新興開発地区の様子

当センターは、2007年9月にコルカタ市の「インド国立コレラ及び腸管感染症研究所 (NICED)」内に設置され、現在は文部科学省の『感染症研究国際ネットワーク推進プログラム (J-GRID)』に参画しています。

ここでの私の職務は、研究者の出張や勤務管理、物品購入から支払、インド人雇用者の給与支払、訪問者対応など多岐に渡ります。

こちらでは納期や時間は日本よりかなり適当 (願望や目安のようです)。銀行が金額を間違えることもあります。最初は驚きましたが、異文化の中では、NOを言う力、

納得するまで説明する忍耐力や妥協案を引き出す交渉力、そして時には受け入れる寛容さも必要だと感じるようになりました。

インド社会の印象には、富裕層が先進国並みの生活、中・下層が映画「三丁目の夕日」のような高度経済成長期の雰囲気、最下層が物乞いや路上での生活、と激しい格差を感じますが、コルカタは全体的にのんびりしています。とはいえ、携帯電話はかなり普及していますし、最近では「スマホ」も多くの人が使い始めました。経済発展とともにコルカタも変わりつつあります。

読者アンケートの
ページを
開設しました。



興味のある記事や今後取り上げてほしいテーマ、その他本誌に対するご意見等をお聞かせください。

【アンケートの入力口は以下の URL です。】
<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/kohoshi.html>

この一年間、73号から76号まで、本誌の編集のお手伝いをさせて頂きました。編集長の名に値する「貢献」はとてできませんでしたが、後藤前編集長や三浦副編集長(次期編集長)、そして、企画・広報課のスタッフのみなさんの的確なサポートのおかげにより、なんとか任を終えることができました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

ところで、最近のある民間リサーチ会社の調査結果によれば、中国・四国地方の「工学ブランドカレッジ」(有職者ベース)で、岡山大学は、主要58大学中、総合第2位にランクされています。ブランド・イメージ項目別では一般的には、「センスがいい、カッコいい」などで、学生については「集

編集
後記

この調査結果は、外からの岡山大学像を知るうえで、少なくとも一つの参考にはなるでしょう。その意味でこれらのデータを岡山大学のいわば「強み」としてこれを今後の広報活動の中により積極的に位置づけることも考えてよいのではないかと考えます。本誌が、そのための重要な媒体として、さらに「センスがよい」の存在があり、そして、ますますインタラクティブな広報誌となることを願っています。

法学部准教授 ◆ 高橋 正徳

Postscript by the Editor